

施策評価シート(平成23年度の振り返り、総括)

作成日 平成 24 年 5 月 21 日

施策	29	生涯スポーツの推進	主管課	名称	教育課	関係課	
				課長	柳 健		

施策の目的	対象 (誰、何を対象としているのか)	対象指標	単位	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度見込み	把握方法
	①生涯を通じてスポーツや運動をする。	①町民	A 人口(外国人を含む)	人	22,924	22,591	22,194	21,727	
B									
C									
D									
意図 (対象がどのような状態になるのか)		成果指標 (意図の達成度を表す指標)	単位	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度目標	設定の考え方と把握方法
①生涯を通じてスポーツや運動をする。		A 週1回以上、スポーツや運動をしている町民の割合	%	28.6	33.5	-	27.0		A)直接的な設問であり、数値が高まれば目的が達成できているといえるため成果指標とした。 町民アンケートにより把握 ※あなたはどの程度、運動・スポーツをしていますか。→「ほぼ毎日」、「週に1日以上」と回答した人の割合
	B								
	C								
	D								
	E								
	F								

住民と行政との役割分担	1. 住民の役割 (住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	2. 行政の役割 (町がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
	①自主的に運動し、啓発活動をしてもらう。(団体等についても) ②指導者になってもらい、さらには後継者を育成してもらう。 ③スポーツやレクリエーションの講座やイベント、団体・グループ活動に積極的に参加する。	1)町がやるべきこと ①スポーツマスタープランを策定・進捗管理 ②指導者の育成支援と支援強化 ③施設の整備と管理運営 ④スポーツ教室・大会等の開催(意識啓発も含まれる。)

1. 施策の成果水準とその背景・要因		
<p>1)現状の成果水準と時系列比較（現状の水準は？以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は？）</p> <p>①「週に1回以上運動・スポーツをしている町民の割合」は、平成21年度33.5%→平成23年度27.0%となり、6.5ポイント減少した。震災の影響により年度前半に体育施設の利用が制限(利用休止や閉館時刻の繰り上げ)されたり、放射線を心配して利用を控えたなどの影響が考えられる。なお、体育施設の利用者数は平成22年度12.3千人から平成23年度は11.4千人へと約7%減となっている。屋外施設の利用は17%増加、屋内施設の利用は3%の減少。</p> <p>②年齢別にみると、60歳代で37.1%と高い一方、30歳代14.0%、40歳代で16.2%と低い割合となっている。30～40歳代は仕事や地域行事などの都合により、スポーツに参加できないのではないかと考える。また、70歳代の高齢者では、「毎日している」人の割合も14.2%と高い。高齢者の運動に対する関心は高く、ラジオ体操を始めた地域もある。</p> <p>③年齢別に平成21年度と平成23年度の割合を比較すると、特に20歳代で約36%→25.8%、30歳代で約33%→14.0%、40歳代で約24.8%→16.2%へと、若年層で大きく減少している。</p> <p>④地区別にみると、月夜野地区で34.2%→24.6%、水上地区で30.8%→29.3%、新治地区で30.4%→28.6%となるなど、特に月夜野地区での減少が目立つ。月夜野地区では、夜間の体育館利用が多く、震災による体育施設利用制限の影響が考えられる(総合体育館の利用者数が約7%減)。</p>	<p>2)他団体との比較（近隣市町村、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は？）</p> <p>①全国や群馬県のデータと比較すると、週1回以上運動・スポーツをしている人の割合は全ての年代において下回っている。特に、壮年は平均との乖離が大きい。チームスポーツを行うためには一定規模の人口が必要であることや、ランニングやサイクリングを行うには高低差が大きい。また、全国的にはボウリングや水泳を行っている人の割合が高くなっている(それぞれ3位＝12.2%、5位＝8.6%)が、近隣に施設がないことも要因と考えられる。</p> <p>みなかみ町 全体27.0%、青年25.8%、壮年19.1%、高齢者33.9% 群馬県 全体47.2%、青年51.8%、壮年29.5%、高齢者38.6% 全国 全体45.4%、青年27.7%、壮年42.3%、高齢者53.6% ※青年＝20～29歳、壮年＝30～59歳、高齢者＝60歳以上 ※群馬県の数値は、平成22年度運動・スポーツに関する意識調査による ※全国の数値は、平成21年度体力・スポーツに関する世論調査による</p> <p>②他の市町村と比較し、町の体協組織がしっかりし、活動量・人材ともに充実している。</p> <p>③市町村所有としての人工芝の運動広場を所有しているのは近隣ではみなかみ町だけであったり、町村合併によって体育関連施設の数が多くなるなど、近隣市町村と比較しても体育施設は充実している。</p>	<p>3)住民の期待水準との比較（住民の期待よりも高い水準なのか 同程度なのか、低いのか、その他の特徴は？）</p> <p>①老朽化の進む施設が多くあり、整備に関する要望に応え切れていない。(修繕や設備の機能向上など)</p> <p>②施設については、観光目的の利用と町民の利用がバッティングすることがあり、町民利用に制約が生じている。観光利用は特に夏休みに集中している。観光専用の施設も必要ではないかという声もある。</p> <p>町民アンケートによると、この施策に対する満足度は、満足5.9%、やや満足24.6%、やや不満3.8%、不満1.9%となっている。</p>
2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括		3. 施策の課題認識と改革改善の方向
<p>①平成22年度に開設した緑地公園の人工芝グラウンドの利用者数は平成21年度3,562人(人工芝敷設工事のため利用できない期間あり)であったが、平成22年度12,199人と約3倍、平成23年度にはさらに14,243人に伸びており、町民のスポーツ実践に大きく貢献した。主にホッケーやグランドゴルフで使用。</p> <p>②平成20年度から開始した軽スポーツ教室・ウォーキング教室等へ約109人の参加があるなど、ポイントを伸ばす要因となっている。平成23年度からはスポーツ吹き矢を導入し、スポーツ教室で実施する他に、地区のイベントとして紹介して好評であった。生涯学習大会でも発表会を行った。</p> <p>③平成19年度から協賛金を集め、各競技団体・支部に助成し盛んな取り組みを行っている。競技スポーツは体育協会が主体となって行っている。</p> <p>④生涯スポーツ講演会を講師に草野仁さんを招いて実施した。</p> <p>⑤広大な地域で体育関係施設が多く管理運営が難しい所もあるが、3地区の中心となる体育施設の管理人を置き、その地域の体育施設の貸出等を行うようにした。</p>		<p>①老朽化した施設が多いので、施設の修繕や整備、耐震補強を計画的に実施する必要がある。避難所となっている施設も多い。</p> <p>②体育施設をより利用しやすくするため、町民は無料で施設を利用できるようにするなど対策が必要である。</p> <p>③夏場の合宿などで施設を利用する機会が多いため、町民の利用との兼ね合いを検討する必要がある。県外に宿泊して、町内の体育施設を利用するようなケースも見受けられる。</p> <p>④町村合併により施設の数が増えたが、どれも中途半端な規模であり、今後全ての施設に均等に投資を行うのか、いくつかの施設に集中的に投資をするのか(再編や統合を含めて)議論を進めていく必要がある。</p> <p>⑤週に1回以上運動・スポーツをしている町民の割合の向上に向けて、体を動かすことの必要性を周知し、体育施設＝スポーツの考えを転換し、体育施設に外向かなくてもできるスポーツ(体を動かす運動)の考案及び紹介をしていくことも重要である。</p> <p>⑥40歳代、50歳代での運動不足が生活習慣病の一要因であることや、心身のリフレッシュにつながることを周知し、健康な心身があって働くことができ、生涯にわたって楽しい生活を送ることができることの認識を与える。</p> <p>⑦多様な生涯スポーツの充実も必要である反面、みなかみ町の特性であるスキー・ホッケー等の競技人口が激減している。小・中学生の強化にも力を入れトップ選手の育成体制(競技スポーツの充実)が必要。また、スキー・ホッケー等が生涯スポーツとなるよう裾を広げることも大切である。</p> <p>⑧臨時雇用の作業員により屋外施設の除草等を行っているが、時期によっては手一杯になるところも出てくる。円滑な利用及び施設の利用促進を進める上で施設管理の作業班は絶対的に必要である。</p>